

## 野草観察

### 仲間の花 勢揃い—15

カヤツリグサ科の花 16 種 (No.135~150) を紹介します。

この仲間には花びらなどの目立つものがなく、最初のころは観察の対象外にしていました。しかしながら、至る所で出会うことから、目先を変えて名前の由来を調べ始めたところ、これまでとは違った観察着眼が出てきて、徐々に関心度が高まってきたように思います。

掲載分 10 種については、「牧野日本植物図鑑」(昭和 15 年発行)に和名の由来が記されていますので、『 』内にカタカナ表記そのままに転記しました。

#### カヤツリグサ

#### コゴメガヤツリ



カヤツリグサは、道ばたや畑地、空き地などに普通に生育し、水田、畑地の強害草となっています。『和名ハ蚊帳釣草ノ意、小兒互ニ其稈ノ端ヨリ裂ケバ四條ニ分レテ四角トナル、之レヲ蚊帳ヲ釣ルニ擬シテ戯レ遊ブ故斯克云フ』

コゴメガヤツリは、カヤツリグサと同じような場所に普通に生えますが、やや湿気を好むようです。『和名ハ小米蚊帳釣ニシテ其花小形ナルヲ以テ云フ』

#### ユメノシマガヤツリ

#### メリケンガヤツリ



ユメノシマガヤツリは、アフリカ南部～オーストラリア原産の帰化植物です。1982年に東京湾夢の島で初めて確認されました。現在では東京都・埼玉県・千葉県において湿地や水辺などで見られます。

メリケンガヤツリも帰化植物です。メリケンとはご存じの通りアメリカのことで、熱帯アメリカ原産なのでこの名があります。荒川の岸辺でユメノシマガヤツリと並んで生えている姿をよく見かけますが、ユメノシマガヤツリとの出会いは稀にしかありません。

#### シュロガヤツリ



#### タマガヤツリ



シュロガヤツリは、観賞用に栽培されていますが、河川の岸辺などでも生育しています。マダガスカル原産の帰化植物です。放射状に延びる細長い葉姿がシュロを思わせることからこの名があります。

タマガヤツリは、田の畔や溝の縁などに生えています。『和名ハ球蚊帳釣ニシテ、たまハ球形ヲ成セル花穂ニ基キテ斯克云フ』

#### ハマスゲ



#### アゼガヤツリ



ハマスゲは海岸や畑や道端など、日当たりの良い乾燥したところでよく見かけます。『和名浜すげハ海浜付近ノ砂地ニ多ク生ズレバ云フ』。「スゲ」はカヤツリグサ科スゲ属植物の総称で、日本には210種ほど自生しているそうです。

アゼガヤツリは、田の畔や湿地などに生えています。『和名ハ畔蚊帳釣ニシテ此品能ク畔ニ生ズル故斯ク云ウ』

サンカクイ

フトイ



サンカクイは、池や沼、河辺などに生えていて、群生している姿を見かけることもあります。茎の断面が三角形をしていることからこの名があります。

フトイは、サンカクイと同じような生育環境にあります。『和名ハ太みニシテ草状大ナルヨリ云フ、又大みモ同意味ナリ』。図鑑の説明のように、フトイは他のカヤツリグサ科の他の植物に比べると、全体に大きく、茎は太くて丸い形をしています。

ヒメクグ

アゼナルコスゲ



ヒメクグは、日当たりのよい湿ったところに生育しています。『和名姫くぐハ草状全体小形ナルヨリ姫ト云ヘリ』。「クグ」はカヤツリグサの古名で、それに小さいことを示すヒメの接頭語がついたものです。

アゼナルコスゲ(別名 アゼナルコ)は、川岸や田の畔などの湿地に生えています。『和名ハ畔鳴子ノ意、鳴子ハ下垂セル花穂ノ連ナル状ニ基ヅキ、畔ハ其生處ニ由ル』

ミコシガヤ

ナガバアメリカミコシガヤ



ミコシガヤは、湿った草地や田の畔、河辺などに生えています。『和名ハ神輿がやノ意ニシテ其花穂ノ状ニ基ヅキテ云フ』

ナガバアメリカミコシガヤはミコシガヤの仲間で、細長い葉を持ち、北アメリカ原産であることからこの名があります。何とも長い名で、覚えるのに苦労しました。

ヒンジガヤツリ

イソヤマテンツキ



ヒンジガヤツリは田の畦や休耕田、河川敷などに生育しています。カヤツリグサに似て、丸い穂が3つ集まった姿が漢字の「品」の形に似ていることからこの名があります。

イソヤマテンツキは、海岸の砂地や岩場などに生育しています。和名の漢字表記は「磯山天突」。この名は、仲間のテンツキ『和名ハ天突ニシテ其花穂ヲ以テ点ヲ附シ得ベキヲ以テ斯克云ウ、或ハ小穂上向セルヨリ天ヲ衝クノ意乎』から来ています。